

大河内山荘



大河内山荘はあいにくの雨だった。

いかなものかと思っていたが、雨の中だからこそその発見があった。

足下に注意して進んだせいか、石が気になった。非常にたくさんの種類のものが、様々に配置されていた。

階段の段ごとにデザインが違って、下を向いても飽きない感じだった。

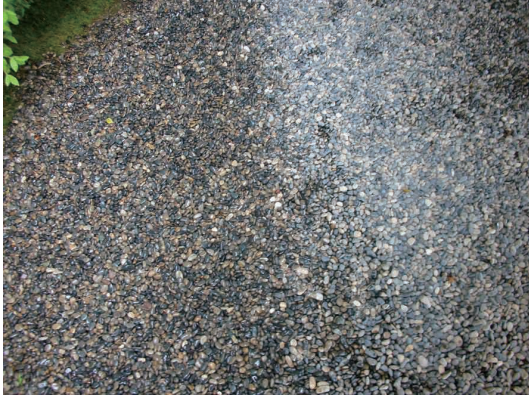
造った人はきっとそこまで考えていたんでしょう。



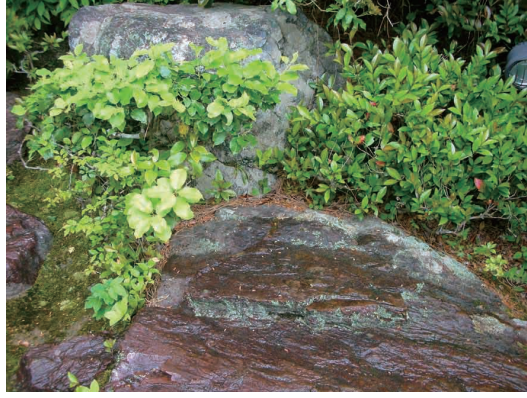
大河内山荘

石は、濡れたときに初めて本来もつ色を発揮するらしい。(部長さん講義より)
なるほど、濡れた石は、発色がいい。雨の日だからこそ、気付いたことで、雨も捨てたもんじゃないと思った。

濡れた石



乾いた石



奥 乾いた石

手前 濡れた石



赤っぽい石と苔の緑のコントラストがきれいだった。
この赤の発色の良さは雨ならでは。
苔の色は真似できない綺麗な色。
写真に撮って、記録に残しても、本当の色は実際に見
ていたその瞬間でしか味わえないものだ。

あいにくの曇り空だったが、空に向かって、突き刺す
ように竹が伸びる。



無鄰庵



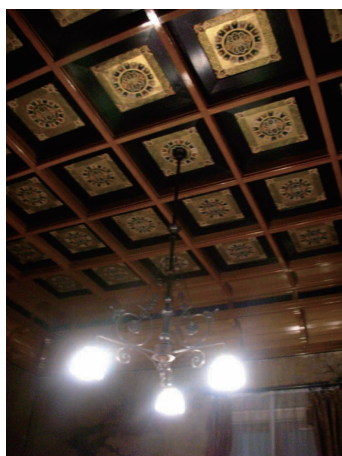
明治・大正の元老、山形有朋の別荘である。池泉を中心とした、明治時代の代表的な庭園。疎水の水を取り入れた池泉回遊式庭園。

今回の研修の中で、最も落ち着く感じがする庭園だった。山形有朋、一個人の庭園だけあって大きさも程よく馴染む感じがした。

素朴な感じがする中で、池泉の流れを調整するために、流れの中の石も設計されているんだろう。

閑静な空間の中で、水の流れだけが、音を発する。表情を表す。

東山を借景とした眺めは、山形有朋をさぞや癒したことだろう。



庭園の中には洋館も建っている。和と洋が混ざり、かもし出す空気も独特だった。

洋館の中の天井の様子はまさに贅沢。ライトに照らされ、ぼんやりと浮かび上がる様子は、とても雰囲気があった。

床下の空気孔のようなものにまで、洋館らしさが表れている。

